南区ボランティア・市民活動センター　だより
NO.27
令和8年11月発行

ボランティア・インタビュー第6弾！



今回のセンターだよりは、南区北部で「音楽のことなら彼に聞け！」と頼りにされているピアノマン・原久郎さんと、現役の福祉職にして地元・鷲巻地区で地域のよりどころとなるような居場所づくりを目指す真柄渉さんの活動を紹介します。

人と一緒に音楽を楽しむ、人と人をつなぐ拠点を作る、おふたりの活動の中心にあるのは『人』なのです。AIを使った嘘やだまし合いが溢れる今の時代に、人との関わりがもたらしてくれる楽しさや豊かさが南区に溢れていることをお伝えします。

ジャズバンド　ウエンズ　原（はら）　久郎（ひさお）さん

ウエンズで25年

ウエンズの設立は25年前で、メンバーはみんな南区在住です。サックスとベースが白根地区で、ドラムとピアノが大通地区、ボーカルが根岸地区。昔、夏にカルチャーセンターで毎年開催された「おらしろねもん」というライブでジャズセッションがあったり、ちょっとしたイベントでメンバーを集めてジャズを演奏するとか、そのころ白根でジャズをやっている人が結構いたんですよ。ウエンズはリーダーの星野さんがメンバーに声をかけて結成したバンドです。

毎週水曜日に大通地域生活センターで練習をしています。社会人だと練習する場所と時間を調整するのが大変なんだけど、それが固定できたのは大きかった。長く続けてこれたのはそのおかげですね。

25年間、ほぼ毎週水曜日に練習。で、バンド名が「ウエンズ」なんですよ。以前は男女のボーカルがいて6人編成の時もありましたが、女性ボーカルが千葉に引っ越してしまったので、今は男性ボーカルがメインで活動しています。

練習はメンバーがそれぞれやりたい曲を持ち寄ってという感じで、せっかくやるんだったら、いろんな人に見てもらおうか、っていうことで設立の翌年からずっと新潟ジャズストリート※1に出演しています。

リジョイシングも25年

昔、ヤマハにゴスペル教室というのがあって、どんなことをやるんだろうと思って1年間入ってみたんですよ。そこで知り合った人たちが集まって





写真上：ウエンズのメンバー。右からボーカルの川田さん、ピアノの原久郎さん、サックスの星野さん、ベースの斎藤さん、ドラムの原聡さん。

写真左：※1　新潟ジャズストリート
1998年から夏と冬の年に2回、新潟市内の飲食店やホールを会場にプロ・アマの多彩なバンドが同時多発的にライブを行う市民手作りの音楽イベント

この情報紙は新潟市からの補助金を受けて発行しています

結成したのが、リジョイシング※2。当初は誰でも歓迎だったから20人近くメンバーがいたんだけど、やりたい方向性が決まってきて、今は8人体制になりました。ウエンズの結成に誘われたのとほとんど同じくらいのタイミングですね。こっちのメンバーは、大体が市内で、あと新発田から来てる人もいます。皆ほとんどフルタイムで働いているので、練習は月1回土曜日の午後のみ。月1回であれば調整も可能なので。

SLばんえつ物語号でゴスペルのクリスマス曲を歌うとか、アルビレックスが初めてJ1に上がる前年のオープニングイベントに出演したことも。どちらも昔の話ですけど。アカペラ※3がほとんどなんですが、ピアノが入る場合もあるから、リジョイシングはコーラスグループと言っています。



原さんのお勤め先はダイニチ工業さんでした。い～い会社です♪

実はピアノを習ったことがない

私、大学までほとんどピアノを触ったことがないんですよ。習ったことがない。全部独学です。大学でバンドに入ってからバイエルを練習した。普通、大学に入ってからバイエルってあんまりないですよね(笑)。

大学を卒業して就職して、入社してすぐ会社で音楽クラブを作ったんです。なんと、たまたま大学の先輩ですごくギターの上手い人が同じ職場にいたんですよ！　会社の仕事が終わって暑気払いの飲み会をやる時に、新入社員が歌ってそのバックバンドをする、という楽しい催しは退職するまで毎年続けていました。会社の方である程度予算を付けてくれたし、部室もちゃんと用意してくれた。いい会社です。

私が初代の部長をやって、今はもう4、5代くらい代替わりしているのかな。入社してからずーっと続けている60代から新入社員の20代まで、いろんな世代の社員がいるんです。若い人がいると自分の全然知らない曲がいっぱいあって、なかなか刺激になるんです。そういう世代とやるのも楽しかったですよ。

音楽の地域クラブも運営

白根北中学校との関わりは15年くらい前になるかなぁ。学校の合唱祭がきっかけです。北中の合唱祭は生徒部門と大人部門(先生や父母、地域の方)があって、私は大人部門の男性パートのまとめ役をしていたんです。指揮者もピアノ伴奏者も大通の住人だったこともあって。大人部門ができて初めての合唱祭の時は、リジョイシングにも協力してもらいました。そこからずっと関わって



※7　みゆきや
中之口川の川岸に建つ「珈琲自家焙煎 みゆきや」。多趣味なご主人の天体観測ドームがある店内で、時おり音楽発表会が開かれるなど、知る人ぞ知る隠れ家的なカフェ。
新潟市南区上塩俵109



写真上：※2　リジョイシング
アルビレックスが初めてＪ１に上がる前年、ビッグスワンで行われたオープニングイベントにて

※3　アカペラ
楽器伴奏を使わず、声だけで演奏する歌唱スタイル。語源は「教会で」を意味するイタリア語

いて、昨年の4月からは北中の地域教育コーディネーターも引き受けてしまいました。

そのころから部活の地域移行※4の話が騒がしくなってきて、近所の小学生が「中学に行ったら吹奏楽はできないんだって」とあきらめた話を聞いて、そりゃかわいそうだと思ったんです。それで、大通地域の有志5人で「しろきた音楽クラブ」※5を立ち上げました。週3日、放課後から17時30分まで。途中で先生が帰ってから終了時間まで見守る役です。地域クラブは学校の楽器を借りて音楽室で練習できるところがいいんですよ。最近、生徒に混じってユーフォニアム※6を練習しています。やってみたいなと思って。楽器は嫌いじゃないんで、それこそドラムがいなきゃドラムやるし、バンドやってて仲間にうまい人がいると「あっ、こんな感じでやるんだな」って、見よう見まねでやってみる。ピアノもそうやって弾けるようになりました。

音楽って一人よりやっぱりいろんな人とやる方が楽しい。上手な先輩の演奏を見ながら練習すると結構上達するんですよ。生徒にもそういう楽しさを味わってもらいたいなって思っています。



※4　地域移行
中学校の部活動の運営・指導を学校から地域のスポーツクラブや民間企業へ引き継ぐこと。教員の長時間労働解消や少子化対策が目的だが、指導者の確保や費用の負担軽減が課題

写真上：※5　しろきた音楽クラブの活動の様子

写真上：※6　ユーフォニアム（ピンク矢印の楽器）

音楽好きの仲間たち

根岸に「みゆきや」※7という自家焙煎の珈琲屋さんがあるんです。店内にピアノがあるので触っていたら、店主のみゆきさんから「よろしかったら、どうぞ弾いてみてください」なんて言われて弾いたりしていたんですが、どうせならピアノだけじゃなくてと、ベースの斎藤さんを誘って営業時間外に即興演奏会を敢行！　なんてことも時々しています。

みゆきさんもオカリナやフルートの奏者なんですよ。もともと「みゆきや」では音楽仲間が集まってちょっとした発表会をやるとか、南区だけじゃなくて区外や市外の音楽好きが聞きに来ているようです。実は北中の地域教育コーディネーターもみゆきさんのご主人から引き継いだんですよ。「定年退職したんだから、できるよね」って言われて(笑)。

健康は義務！

仕事にしなくても一生楽しめると思うんですよ、音楽は。私のように会社に勤めても音楽クラブを作ったり、バンドに参加したりできる。ウエンズもリジョイシングもそうですが、こんなに長く音楽を続けてこられたのは、いいメンバーに恵まれたおかげです。

ウエンズの目下の大きな課題は、お互いの体調の管理ですよ。5人のメンバーのうち一人でも欠けたら、音楽としてはちょっと成立しない。「お前が抜けたら大変なんだから、ぜったい節制しろよ！」って声かけあって。ほんと切実です。そういう世代になってきました(苦笑)。



今年の7月に開催した新潟ジャズストリートでは女性ボーカルが千葉から里帰り。素敵な歌声を披露した

コミュニティカフェわしのき　コミカフェ

真柄（まがら）渉（わたる）さん

一家で新潟に帰郷

生まれは東京なんですけど育ちは青森と山形で、転勤族の家族だったんです。私が中学2年生のときに父が祖父の後を継ぐ形で一家で新潟に戻ってきました。24歳になった頃、突然母が倒れてしまって、看病で毎日病院通い、汚れたタオルを自宅に持ち帰って洗うような日々でした。

そんな話を職探しのときにハローワークで話したら、「真柄さん、介護もいいんじゃないですか？」って言われて、特別やりたいこともなかったので、やってみるかとヘルパー2級※1の資格を取りに職業訓練校に行きました。卒業して介護施設で勤務しましたが、肉体的にも大変で2年ほどで一度辞めることになりました。つなぎのバイトをしていた時に、訓練校の講師だった方から、「無職の若者やひきこもりの人の支援事業を立ち上げるから、来ない？」と、連絡があったんです。



※3　**鳥の歌**　かつて本町2丁目にあった居酒屋。酔客のための仮眠室を備えた昭和民家のしつらえで、マスターをはじめ個性的な客が集った名店。平成30年に西堀の古民家へ移転した

きまま舎と鳥の歌

ご縁に導かれるとはこのことです。ささえあい生協傘下の「きまま舎」※2に入社することになり、本町にあった「鳥の歌」※3という伝説的な飲み屋さんの昼間を間借りして、「コミュニティカフェ鳥の歌」と名付けて若者支援の事業がスタートしました。オープンキッチンで調理する姿がお客さんから見えるような小さな店だったので、利用者さんとお客さんの距離が近くてアットホームな活気がありました。

支援を続けていく中で、働けない若者やひきこもりがちの若者の多くが何らかの障がいと関わっていることがわかってきて、平成24年に活動の方向性を障がい者支援に変更。障がいのある利用者さんが調理や接客をするカフェの就労支援事業を始めました。その後、本町から天寿園※4に引っ越して「天寿園カフェKimama」となり独立した厨房と広々としたホール、という立派な環境になりました。場所が変わると利用者さんとお客さんの関係も変わるもんだなぁ、と思っていたところへ、本町の鳥の歌が西堀に引っ越して跡地が駐車場になっちゃったと聞いたんです。



真柄さんのご実家は、まるで百年桜のような古木が並ぶ鷲ノ木桜遊歩道公園のすぐそば

※1　ヘルパー２級
ヘルパー2級は訪問介護員を養成するための公的資格。身体介護や生活援助を学ぶもので、現在は初任者研修と名称変更された

※2　きまま舎
ささえあい生協が運営している中央区の就労支援事業所。障がいなど、様々な事情で働けなくなってしまった若者が再び働けるよう、働く場の提供や一般就労に向けた訓練・サポートなど支援を行っている

※4　天寿園
中央区清五郎の複合施設「天寿園」内にある、美しい中国庭園を一望できる開放的なカフェ。障がいや病気を持つ利用者が厨房・フロアで働き方や人間関係を学び、少しずつ社会経験を積む実践的な就労トレーニングの場

※5　ささえあい
コミュニティ生活協同組合新潟
住民や高齢者自らが主体となって運営する福祉型の生活協同組合。高齢者等の介護や見守り・買い物などの生活支援を行うほか、ひきこもりや障がいを抱える若者の就労サポート、地域の居場所づくりなどに取り組んでいる

※6　新潟市ひきこもり相談支援センター
通称「ひきセン」。市が「ささえあい生協」に委託運営する専門の相談窓口。
市在住の当事者や家族等を対象に、電話や面談、訪問支援のほか、当事者同士が交流できる居場所を運営している。長時間ひきこもっている方の回復と社会参加に向けた段階的な支援を行う



※7　ガーデンカフェ鬼ヶ島
「鬼も仏に変わる場所」がネーミングの由来。多世代が集う地域の貴重な交流拠点であり、第3の居場所の役割も担う

地域活動の種が蒔かれた「鬼ヶ島」

一方、同じような時期にとても鮮烈な出会いがありました。きまま舎の母体であるささえあい生協※5はたくさんの事業を運営していて、同じ法人の内外や組合活動でいろんな人に出会うんですよ。市民活動家や市議会議員、ホームレス支援をしている人、DV被害者の支援団体、無農薬農業や自然療法にこだわる人など、みな独自の世界観を持った人たちでした。

その中で、ひきこもり相談支援センター※6の所長をしていた方から、遊びにおいでと誘ってもらったのが「鬼ヶ島」※7です。DIYが得意な方だったので、三条の自宅のガレージと庭を居心地のいいレストランみたいな空間にして、皆でごはん食べたり話をしたり。すごく素敵だなぁって。夜、仕事を終えて行ってみると昼間から残っている人が数人いて、その人たちと何かつまみながらお酒を飲んだりして、とても楽しかった。

やり残したことが蘇る

鬼ヶ島がなんだかすごく楽しいなと思って参加していたところに、鳥の歌の駐車場の話を聞いて、消化不良だった気持ちがぶわっと蘇ってきたんです。一番最初に関わった若者支援の拠点「コミュニティカフェ鳥の歌」。でも、コミュニティとか地域の居場所っぽいことは全然やれていなかったんじゃないか。1年くらいモヤモヤしていたんですが、ある日上司に地域の居場所をやりたいと言ってみたら、「やればいいさ」って。

最初は障がい福祉の制度を使って事業として居場所を運営しようと検討したんですが、結局個人としてできることを考えることにしました。方法を模索しているとき、子どもを小児科に連れて行った妻が「こういうのに、あなたはつながった方がいいんじゃない?」って、待合室から持ってきた支え合いのしくみづくりフォーラムのチラシ※8を渡してくれたんです。



※8　真柄さんが主宰するふたつのカフェ誕生のきっかけをつくった、支え合いのしくみづくりフォーラムのチラシ

ふたつのカフェが誕生

当時、私は西区の鳥原に住んでいて、職場は中央区。それでもやるなら実家のある地元・鷲ノ木新田で、という思いがありました。40歳前後で地元には知り合いもほぼいない状態でしたが、フォーラムに参加したことがきっかけで、ささえあいのしくみづくり推進員の方※9とつながり、その方が鷲巻地区コミュニティ協議会の会長に引き合わせてくれました。

鷲ノ木新田は鷲巻地区の北の端に位置する地

域なんですが、知らない人間がいきなり「鷲ノ木で居場所をやりたい」って相談しても警戒されただろうけど、おかげさまで鷲巻コミ協の会長や地域の役員さん、推進員さんと私が旗振り役となり、令和3年4月に「コミュニティカフェわしのき」がスタートしました。

最初の回は竹の水鉄砲づくりをやってみました。参加者は子どもが10人前後と親が4~5人、この地域は意外と子どもがいるんだなぁと思いました。そうした活動を地味に続けて1年ほど経った頃に、鷲巻地区社協の会長がセンターでもやってほしいと声をかけてくれて、令和4年の春からは開催場所が2か所に。鷲ノ木は「コミュニティカフェわしのき」、鷲巻地域生活センターは「コミカフェ」と称して開催しています。

今年度からは力強い助っ人が来てくれて毎月開催しています。味噌づくりの参加者で鷲巻住人だった元食推さん※10がコミ協の職員となり、コミカフェの企画・運営・実施スタッフとして関わってくれています。



コミカフェで「ういろうづくり」やりました！

※9　支え合いのしくみづくり推進員
市が設置した、誰もが安心して暮らせるよう、住民同士の助け合いや生活支援の体制を地域に整える推進役

※10　食推さん
食生活改善推進員の略称。料理教室などを通じ、地域の健康づくりを担う食のボランティア。市が活動者を育成

人と人をつなぐ拠点を鷲巻に作りたい

回を重ねるごとに課題が見えてきます。味噌づくりの人は味噌づくり、ヨガの人はヨガと自分の興味があるイベントに参加してくれるんですが、そのイベントを通して人と人が交流する拠点、たとえばひきこもりがちな若者と買い物難民の高齢者をつなぐようなハブ・居場所を作っていきたいと思っています。

実は私自身、過去数年間のひきこもりを経験しています。居場所のない切なさはよくわかるんです。高齢者やひきこもり、認知症、介護など、誰もがなんらかの当事者だと思うんですよね。でも悩んでいることはあっても、それをいきなり口には出せない。イベントに参加して、そこで交わされる雑談という形で困りごとや悩みごとが話せる場にならないか、模索しています。

現役で仕事をしながら地域活動をするのは、時間的にも難しい。でも地域の皆さんに助けてもらいながら何足ものわらじを同時に履いて、あの「鬼ヶ島」のように、いろんな世代の人が集って楽しんだり、真剣に話したり、悩みを相談したりできる居場所を作りたいと思います。一度はあきらめた事業化も視野に入れて、あせらず頑張りたいと思っています。



ボランティアサロン“みなくる”を開設しています♡





切手切りなどの手作業のほか、折り紙学習、防災かるたゲーム、おいしいコーヒーの淹れ方学習など、参加者の向学心に沿っていろいろなお試しタイムを設けています。おいしいお茶と楽しいおしゃべりで過ごす交流の場にお気軽にご参加ください。

日時　11月12日、12月10日、1月14日、2月10日(水)、
　　3月11日　13：30～15：00　※2月以外第二木曜日
会場　南区社会福祉協議会　2F　会議室

社会福祉法人　新潟市社会福祉協議会　南区社会福祉協議会
南区ボランティア・市民活動センター

〒950-1214　新潟市南区上下諏訪木817-1
TEL:025-373-3223　FAX:025-373-6125　◆開所時間　8:30～17:15　月－金
◆ボランティア活動についてのご相談、ご意見などありましたら、お気軽にお問い合わせください

